

新潟大学 災害・復興科学研究所の活動紹介

地域力創造のための防減災学の試み

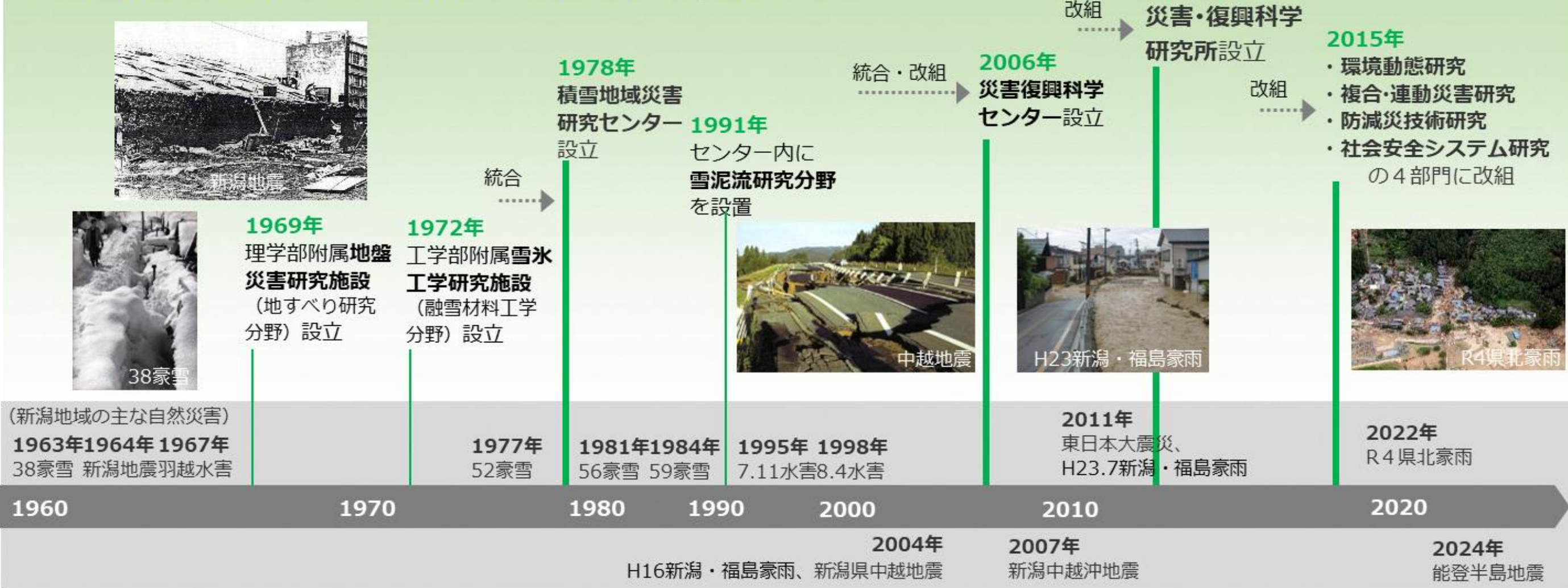
新潟大学災害・復興科学研究所 所長/教授
卜部 厚志

予測困難な災害に対して、 レジリエントな社会を

私たちは災害の予測・軽減・復興研究の拠点として、
国内外の研究機関と連携した取り組みや共同研究を精力的に推進しています。

- ▶ 地域性を踏まえ、**積雪地域・中山間地域の災害**に重点
- ▶ 幅広い分野が連携し、適応能力の高い**レジリエントな社会**の構築

研究施設設置から55年
センター設置から46年



新潟大学 災害・復興科学研究所 **Disaster Resilient Society**の創出

適応力が高い強靱な社会の構築を目指した、変容かつ激化する自然災害の学理探究

2015年～



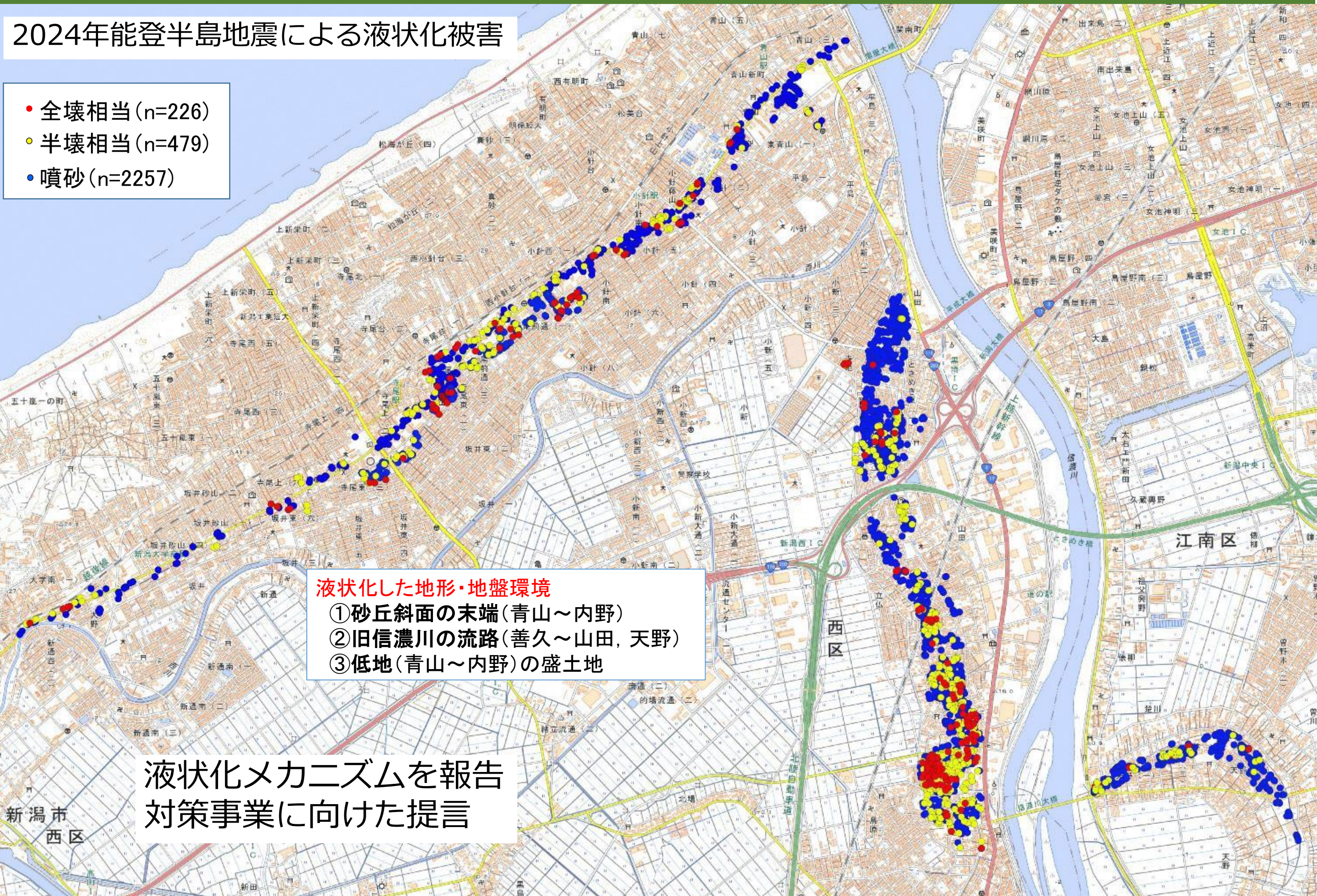
2020年～

学理の探求（理学・工学・社会科学）から
自然災害・社会構造の変容を包摂した“地域力”の探求へ

災害にレジリエントな地域社会の創造

2024年能登半島地震による液状化被害

- 全壊相当 (n=226)
- 半壊相当 (n=479)
- 噴砂 (n=2257)



液状化した地形・地盤環境

- ① 砂丘斜面の末端 (青山～内野)
- ② 旧信濃川の流路 (善久～山田, 天野)
- ③ 低地 (青山～内野) の盛土地

液状化メカニズムを報告
対策事業に向けた提言

住民アンケート調査からみる復興初期の課題

西区地震被害アンケート調査市民の会・コミ協による大規模アンケート

2024年8月実施 7774世帯対象：2757世帯回答（回答率35.5%）

- ①能登半島地震による被害状況と判定
- ②液状化現象により継続する建物・道路変状とり災判定の再申請
- ③災害初期対応の行政課題
- ④復興と今後のまちづくりへの視点となる復興要素

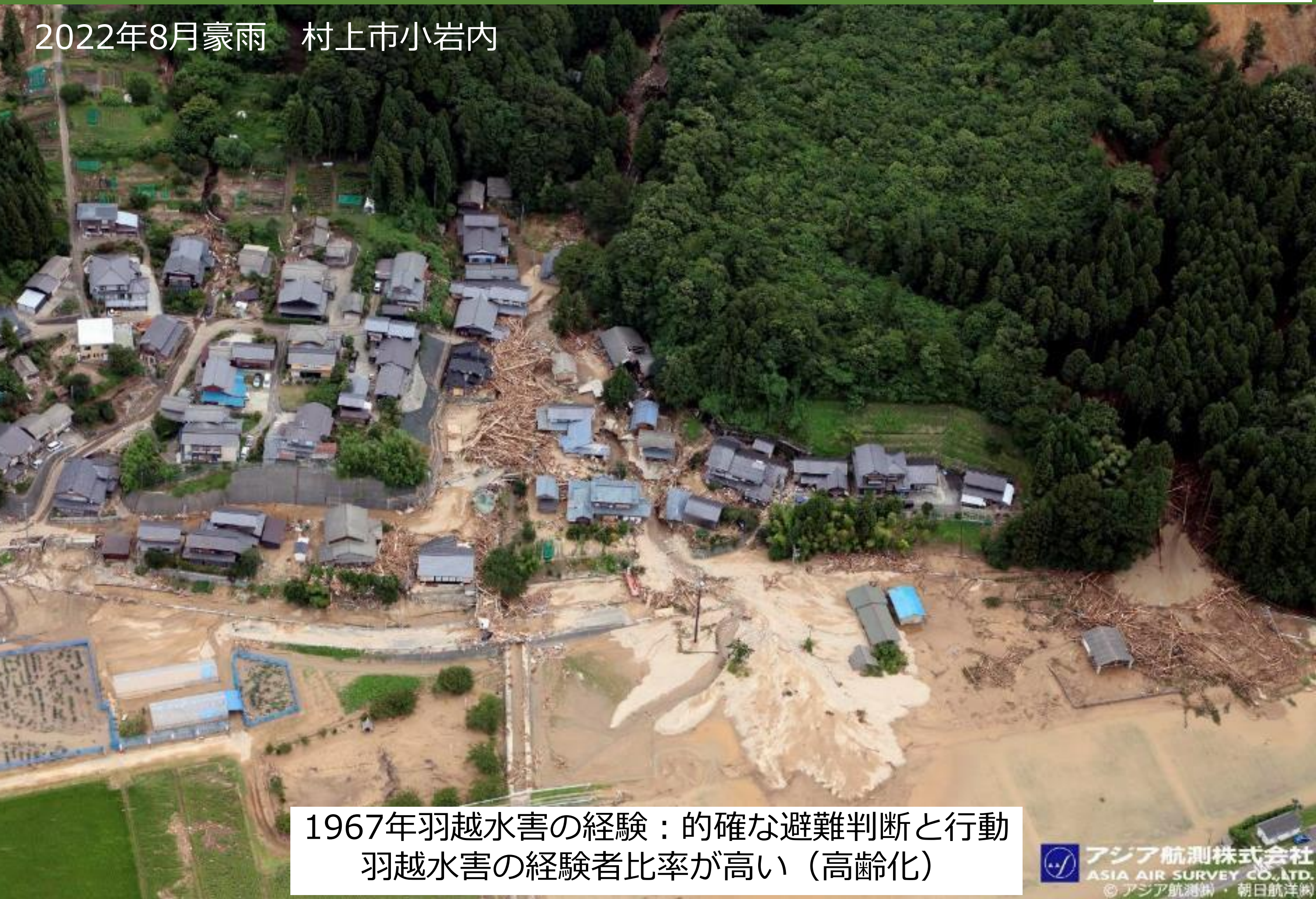
○アンケートの取りまとめ作業から
見えてきた課題の整理と発信

- 新潟市への要望（コミ協）
- 新潟市議会への報告
- 地域への共有

○復興に向けたコミュニティの創生



2022年8月豪雨 村上市小岩内



1967年羽越水害の経験：的確な避難判断と行動
羽越水害の経験者比率が高い（高齢化）

20220804災害からの提言

災害に関する危険（危機）情報と避難リードタイムの確保

鷹ノ巣水位観測地点（到達）での危機情報の発出



小岩内地域へのフォワード情報の提示とリードタイムの確保



過去の災害の経験は、避難行動への大きなインパクト



コミュニティ力が高かったので、的確な行動へ

**フォワード情報としての危機情報の発出と理解
過去経験がなくても、他地域の事例理解の要点の普及**

**コミュニティ力の事前醸成
地域の社会構造の（事前）把握**

災害にレジリエントな社会の創成

理・工学の基礎研究や被害調査だけでは創成できない

事前と事後にみえている多様な事象を知る
(専門とする取組みを行う：自明)

災害を取り巻く事前から10年先の全体像を共有したい

新潟県ではこの21年で多様な災害が発生

災害のその先の20年を知っている

これを共有し、全国に発信する

個々の組織ではなく、連携した取り組みへ



ぼうさい国体新潟 2025

新潟地方気象台との共同ブース

子ども向けの展示や実験

説明：気象台の若手職員さん

